

責任組合の役割を自覚し 安全を基礎に、持続的発展に向けた 展望を切り拓こう！

中央本部は、2月7日(木)、TKPガーデンシティ大阪リバーサイドホテルに於いて、「JR西労組第37回中央委員会」を開催した。荻山委員長は冒頭、昨年以降の災害対応に触れ、あらゆる系統において、グループ会社に働く仲間がJR西日本の経営を支えているという認識のもと、協力会社との信頼関係を深め、求心力のあるJR西日本グループを築くことを重要課題に位置付けて取り組むたいと挨拶した。グループ会社や協力会社に働く仲間との信頼強化を基盤に、「確認ですが：」を合言葉に、確認し合う風土づくりの重要性を強調した。質疑では、「安全」災害時の対応「働き方改革」駅の体制「選挙」等について、活発な議論が展開された。総括答弁で、城副委員長は、「グループに寄り添う」ことの大切さに触れるとともに、今後の西労組が、「グループ会社とともに歩んでいく」と結んだ。

JR西労組第37回中央委員会(発言集約)

特集



敦賀延伸後の課題が山積

村椿委員 (金沢地本)

●「JR西日本グループ安全考動計画2022」がスタートし10ヶ月が経過した

●「JR西日本グループ安全考動計画2022」がスタートし10ヶ月が経過した。今後定期的な意見交換を。運用や人事ローテーション

全体質疑

全体で取り組みを進めて行きたい。2019春闘の概布行動、参院選の浜野よしふみ候補を支援する会、統一地方選、ダイヤ改正の課題等について、取り組んでいきたい。

●民主化闘争については、JR連合北陸地協として、JRイーストユニオン新潟地本と連携し活動をしている。

●北陸新幹線の敦賀延伸に伴い、課題が山積している。福井県の新たな第3セクター会社設立も予定され、金沢以西の第三セクター会社を支援する組合員は増える一方である。社員

●並行在来線会社へ出向させたい。技術者の養成も行ってほしいが、金沢の現状や事情を理解し、本社としっかり協議していただきたい。

●本年は「安全考動計画2022」がスタート。残念なこと、下関での墜落、栗東・草津間での感電と2件の死亡労災を発生させてしまった。また、注意事象も増加の傾向であり、大きな背後要因が存在しているように思えてならない。リスクを洗い出し、防止することができなければ安全考動計画の意味がない。本当に実行度が高く必

●今年4月からは、各建築区や機械区・土技セでフレックスタイム制度の適用が開始されようとしている。一方で、主幹部がグリッブしている準則やマニュアルといった業務フローは、支社での改善が困難である。現場要員体制を考えた「ユニア



簡素なルールが「安全」と「働きやすさ」につながる

脇村委員 (和歌山地本)

●東名高速自動車道における本線上を後退するという事象、大阪・白浜線において、道路を誤り走行不能となる事象を発生させた。2件ともJRということ

●2019年春季生活闘争に対する取り組みでは、工務関係職場の列車見張員手当の新設、現場の職長として従事し、作業グループの安全を守る作業責任者手当の増額を強く求める。関係員については、夜間当直業務における当務駅長手当の新設を強く求める。



連続勤務を最大9日間に短縮

山口委員 (西バス地本)

●鉄道の「ヒューマンエラー」は非懲戒という制度に習い、今年度から事故報告インシデント制度を導入し、更なる安全対策として、高速バス全車両にバス用カスタムナビゲーションを導入する事となった。しかし、いくらハード対策をしても、ソフトである人が要員不足のために、事



●19春闘では、他社エリアの特急列車通勤と、通勤における回数券から定期券への利用拡大、エリア手当の増額を求める。また、通勤で他社線や新幹線を利用している組合員の中には、1回の通勤にJR九州在来線、新幹線、博多南線の三種の回数券を使用しなければならぬなど、IC化が進む中で非常に不便を強いられている。

●博多総合車両所における交渉の場において、これまでの事象に対する対策の進捗状況や、打ち出された対策の実効性について、検証を進めている。

●今年には統一地方選。京都分会は梶原英樹候補、神戸分会は栗山雅文候補の当選に向け、選挙カーの運転などで、積極的に参画していきたい。